

「四季・植物」 34 杉菜

学名 *Equisetum arvense* L.

トクサ科の多年草

葉が杉の葉に似ているため名付いたという説がある。

すぎな

郷土資料から見た「杉菜」のあれこれ

杉菜はツクシが胞子を撒き終えしおれた後に青々と生えてくる。前月号で紹介したツクシが頭部に胞子穂をつけ、胞子を散らす「胞子莖」であるのに対し、杉菜は緑色で節間から輪生状に枝を出す「栄養莖」であり、両者は枝分かれして長く伸びた地下莖によってつながっている。春の風物として親しまれているツクシと違い、繁殖力が強い^{（607）}ため厄介な雑草として扱われることが多い。

食用とされるツクシに対し、杉菜の全草を干したものを漢方では問荊と呼んで解熱・咳止めなどに使用する。利尿効果もあり民間薬としても利用される他、ダイエット用の健康茶として市販されるが、アルカロイドを含むため多く使用する際には注意が必要である。

柏崎には「つぎ つぎ どっからつーいだ どこからついだ」（「柏崎市史資料集 民俗篇」）というわらべ言葉が伝わる地域もあり、ひっぱると節からきちんと抜けてくるので、元どおりに差し込み継ぎ目を当てる遊びをした思い出を持つ人は多いだろう。

参考資料

「図説 花と樹の大辞典」	植物文化研究会・雅麗篇	1996	「日本大百科全書」	小学館発行	1994
「柏崎市史資料集 民俗篇」	柏崎市史編さん委員会編	1986	「草木花歳時記 春」	角川書店発行	1990
「西山町の自然」	西山町発行	2002	「原色牧野和漢薬草大図鑑」	北隆館発行	1988